

高知県あゆ有効活用計画(仮)



令和4年3月

高知県

目次

第1章 計画の策定にあたって

- 1-1 策定の背景
- 1-2 策定の目的
- 1-3 計画の位置づけ
- 1-4 計画の期間
- 1-5 策定の流れ

第2章 現状と課題

- 2-1 高知県の天然あゆの状況について

第3章 計画の基本的な考え方と取組内容

- 3-1 基本理念
- 3-2 施策体系
- 3-3 具体的な取組内容

第4章 計画の推進に向けて

- 4-1 計画の推進体制
- 4-2 計画の進捗管理
- 4-3 取組ごとの役割分担
- 4-4 計画の推進に向けた関連施策一覧
- 4-5 計画とSDGsとの関連

第1章 計画の策定にあたって

1-1 策定の背景

- 高知県において、あゆはカツオと比べるとその資源活用方法が整備されておらず、未利用資源となっています。
- しかしながら、あゆには「移住定住」、「食」、「観光」など高知県が現在進めている施策の支えとなる可能性を秘めており、水産振興だけでなく、観光振興等へも総合的に施策を展開していく必要があります。
- そのため、あゆを有効に活用し、地域・観光振興を促進するための総合的な計画を策定します。
- 策定にいたる経緯を記載

1-2 策定の目的

- 本計画は、高知県の天然あゆの価値を県民全体で共有することを目的とします。
- 本計画は、高知県の天然あゆを活用した高知県の地域・産業・観光・文化振興の将来像を描き、県民全体であゆに関わっていくための共通の指針を示すことを目的とします。

1-3 計画の位置づけ

- 本計画は、高知県産業振興計画を上位計画とし、以下の分野と連携して推進します。

■連携テーマ:地産地消・地産外商戦略の展開(食品分野)

戦略の柱:外商活動の全国展開の拡大・強化

取組方針:地産外商公社を核とした外商の拡大、県産品の販売促進に向けたプロモーションの展開、関西戦略に基づく県産品の外商活動の強化とプロモーションの展開

■連携テーマ:移住促進による地域と経済の活性化

戦略の柱:裾野を広げる

取組方針:関係人口へのアプローチ強化

■観光分野

戦略の柱:戦略的な観光地域づくり

取組方針:中山間地域を中心に地域の強みを生かした「外貨を稼ぐ」観光地域づくりの一層の推進、関西圏からの誘客を図る観光地の磨き上げと「外貨を稼ぐ」仕組み作り

■水産分野

戦略の柱:漁業生産の構造改革

具体的な取組:遊漁や体験漁業の振興

- また、以下の計画やビジョンとの整合を図りながら進めていきます。

<ul style="list-style-type: none"> ・高知県内水面漁場管理保全計画(高知県漁業振興課) ・高知県環境基本計画第5次計画(高知県環境計画推進課) ・四万十川流域振興ビジョン(高知県自然共生課) ・四万十町四万十川保全活用基本計画(四万十町)
--

1-4 計画の期間

- 本計画の期間は、令和4年度から〇年間とします。

1-5 策定の流れ

- 本計画は、次の流れにより策定しました。
- 3回開催したあゆ有効活用計画検討会議において、あゆ有効活用計画検討会議委員(下記名簿)の意見を聞いて素案を作成しました。
- 作成した素案について、パブリックコメントを実施し、県民のみなさまからの意見を広く募りました。
- パブリックコメントの意見も参考に、最終の素案を作成し、4回目の検討会議で委員からの承認を得て成案を作成して公表しました。

あゆ有効活用計画検討会議委員名簿

氏名	役職等	氏名	役職等
あずま けんさく 東 健作	株式会社西日本科学技術研究所 執行役員兼技術部長	にしわき あき 西脇 亜紀	鮎屋仁淀川 代表
くろさき やすし 黒笹 慈幾(委員長)	南国生活研究所 代表	はやし たいすけ 林 大介	道の駅よつて西土佐 駅長
しもうら しんぺい 霜浦 森平(副委員長)	高知大学地域協働学部 准教授	はやしだ ちあき 林田 千秋	高知県内水面漁業協同組合連合会 代表理事
おかばやし ひでのり 岡林 秀典	高知県観光コンベンション協会 専務理事	ほりおか きくお 堀岡 喜久雄	高知県内水面漁業協同組合連合会 理事
ふじもと まさたか 藤本 正孝	高知県旅館ホテル生活衛生同業組合 代表理事		

あゆ有効活用計画策定アドバイザー名簿

氏名	役職等
おかむら けんじ 岡村 健志	高知大学教育研究部 准教授

第2章 現状と課題

2-1 高知県の天然あゆの状況について

●漁獲・流通

- ・県内漁獲量の10%程度しか流通にのっていない
- ・仁淀川、四万十川以外では安定した集荷・流通システムがない

●遊漁

- ・釣り人からの川の認知度は全国有数だが、地理的ハンディから県外遊漁客は少ない
- ・遊漁者に若年齢層が少ない

●観光・6次産業化

- ・「川の幸」の「満足させる力」は高いが、観光客に認知されていない
- ・6次産業化の取組、あゆ関連イベント、川やあゆに親しんでもらう活動が十分でない

第3章 計画の基本的な考え方と取組内容

3-1 基本理念

- 私たちにとって当たり前だったあゆの価値を広め、県内外の人に、もっと高知のあゆと遊んで、もっと高知のあゆをおいしく食べてもらうことを目指します。
- 本計画によって目指す将来像は以下のとおりです。
 - ・〇〇〇がいつそう高まる
 - ・〇〇〇の取組が活発化する
 - ・〇〇〇にいつそう磨きがかかる
- 本計画の推進にあたっては、「事業者」及び「地域住民」が主体となり、「行政」と連携・協働します。

3-2 施策体系

計画の柱	基本方針	方向性	具体的な取組案	
もっと高知のあゆに触れられる機会づくり	観光	①あゆを活用した旅行商品化や体験のための仕組み作り	<ul style="list-style-type: none"> ・火振り漁見学とそこで獲れたあゆを食べさせる体験メニューの旅行商品化 ・「鶏飼い」や「やな漁」といった漁法を用いた観光メニュー作り ・子供を対象とした四万十川でのあゆ体験の家族連れ向けへの展開 ・あゆに関する体験とSDGsやリズナブル観光を結びつけた教育旅行の企画及び誘致 ・ホテル等宿泊事業者と地域や漁協等が連携した「川遊び」「山遊び」といった自然体験オプションの提供 ・キャンプ場で気軽にあゆ釣りなどの漁業体験が出来る仕組み作り（ハードルを下げてファンを増加） ・川へのアクセスの良さやトイレがあるといった好条件を活かした友釣り体験観光の仕組み作り 	
		②旅行商品化等のための環境整備	・駐車場や入川道等の整備、トイレ案内マップの作成	
		③「食」を前面に出した観光キャンペーンへのあゆの活用	・今後キャンペーンの推進に向けて具体的な取組を検討	
	食	①県外観光客に県内であゆを食べてもらう仕組み作り（各種イベント開催を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客等が訪れる各種イベントにおいてあゆを食べる機会の創出 ・県内飲食店でのPRイベント等による誘客 ・個人観光客向けの利きあゆ会の実施 ・県内量販店等での販売方法の提案（アウトドア客への食材提供等） 	
		②首都圏の飲食店で高知のあゆを食べさせる仕組み作り	<ul style="list-style-type: none"> ・「高知家の魚応援の店」制度の活用 ・「まるごと高知」を活用した高知のあゆの発信及び提供（例：県内複数河川のあゆのセット販売・提供） 	
		③県民がもっとあゆに触れられる、食べられる機会及び環境作り	<ul style="list-style-type: none"> ・県内飲食店でのPRイベント等による誘客（再掲） ・県内量販店等での販売方法の提案（アウトドア客への食材提供等）（再掲） ・あゆオーナー制度の導入 ・あゆの販促、PRイベントの開催 ・食育活動でのあゆの使用 	
		④調理方法や食べ方の提案によるあゆの利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・あゆの焼き方等の調理研究によるあゆ提供店での品質の向上 ・塩焼き以外の多彩なメニュー（あゆ寿司、あゆ飯、一日干し、落ちあゆの塩煮等）のPR及び提供 ・レシピコンテストや協力店舗によるメニュー開発 	
	釣り	①子供たちがあゆに親しむことができる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な漁場の整備 ・友釣り専用区等の夏休み子ども（親子連れ）への開放 ・子供向け釣りイベントの開催 ・幼稚園でのあゆのつかみ取り体験等 	
		②県内遊漁者（特に若い世代）の増加に向けた仕組み作り	<ul style="list-style-type: none"> ・あゆ釣り師養成講座の開講 ・一般向けのあゆ漁（しゃびき等）体験メニューづくり ・あゆ漁インストラクターの育成 ・祖父から孫への釣り文化や釣り道具の継承 ・釣り具レンタルや中古釣り具の譲渡などの仕組み作り ・あゆのルアー釣りの普及 	
		③県外遊漁者の増加に向けた仕組み作り	<ul style="list-style-type: none"> ・電子遊漁券の導入拡大や共通遊漁券の実施 	
	もっと高知のあゆで「外貨を稼ぐ」仕組みづくり	加工・流通販売	①県内各河川のあゆを一元的に扱うための流通体制の構築	・県内の商品を扱う地域商社への売り込み
			②安定した供給量の確保	・集出荷システム、冷凍加工、鮮度保持体制の構築
③高知県のあゆのブランド化と県外へのPR			<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の各河川のあゆのブランド化 ・高知家の魚応援の店での「あゆフェア」開催 ・商談会への「高知のあゆ」ブースの出展 ・一人利きあゆ会の商品化（県内複数河川のセット販売） 	
④商談会への出展等外商活動の展開			<ul style="list-style-type: none"> ・県や公社主催の商談会への参加 ・県内外の量販店、小売り、飲食店等のバイヤーとの商談を通じた販路の確保・拡大 ・地域商社と連携した外商活動 	
⑤消費者と直接つながる販売チャンネルの創出及び既存チャンネルの拡大			・流域市町村におけるふるさと納税返礼品への利用拡大	
⑥高知のあゆの持つストーリーを伝達することによる消費者との長期的な関係性（ファン・サポーター）作り			・あゆに関するシンポジウムの定期的な開催	
高知県民をもっと川ガキにする仕組みづくり	体験・教育	<ul style="list-style-type: none"> ①子供たちの釣り体験環境、釣り場環境づくり（再掲） ②学校の総合学習や社会科などでの釣り体験の導入 ③資源保護活動の体験機会の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・稚アユの放流体験 ・ジャクリ漁、投網漁体験、つかみ取り体験 ・学校や地域の方と連携した環境学習の実施（物部川・鏡川・仁淀川・四万十川では取組有り） ・漁協や企業と連携した産卵場造成体験、産卵見学会の実施と鮎オーナー制度の導入 	
高知のあゆとずっと遊び、ずっと食べるための仕組みづくり	資源保護	<ul style="list-style-type: none"> ①天然あゆ資源の持続的活用に向けた資源保護及びあゆ人工種苗放流 ②天然あゆの安定的な確保や不漁年への対応の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・カワウ及び外来魚の駆除や産卵場造成事業への支援、あゆ人工種苗生産事業の継続・拡大に向けた関係団体による支援 ・流域ごとの天然あゆ資源の保護・回復に向けた長期的なビジョンと短期的に実行するアクションプランの策定 ・資源調査とその分析や放流による漁獲量調整等での資源確保案の提案 	

3-3 具体的な取組内容

■観光

●「食」を前面に出した観光キャンペーンへのあゆの活用

・○○○(取組内容)

(取組内容説明書き)○○○…………○○○。

●○○○(取組方針)

・○○○(取組内容)

(取組内容説明書き)○○○…………○○○。

■食

●首都圏の飲食店で高知のあゆを食べさせる仕組みづくり

・○○○(取組内容)

(取組内容説明書き)○○○…………○○○。

■釣り

●○○○(取組方針)

・○○○(取組内容)

(取組内容説明書き)○○○…………○○○。

■加工・流通・販売

■体験・教育

■資源保護

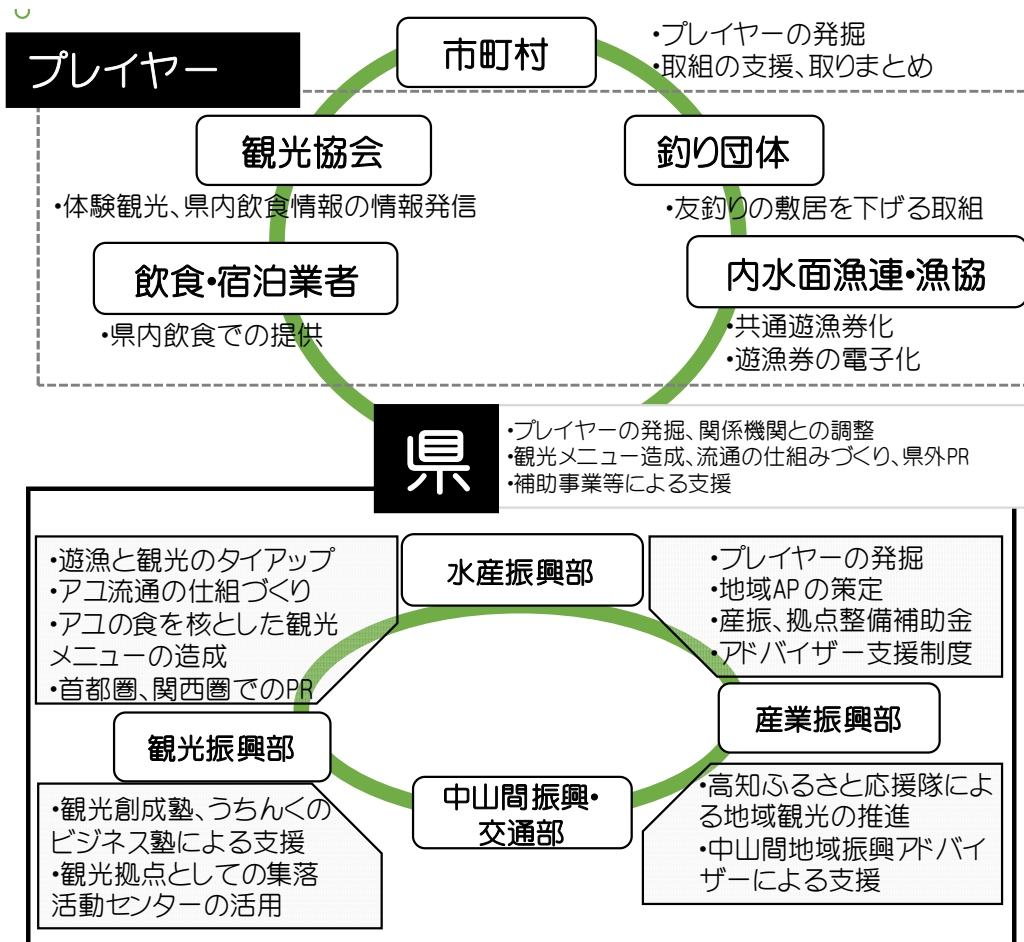
第4章 計画の推進に向けて

4-1 計画の推進体制

●基本的な役割分担

県	
市町村	
県民	
事業者	
関係団体	
…	

●推進体制のイメージ



4-2 計画の進捗管理

- 計画の進捗管理は、進捗管理を行う〇〇委員会を設置し、PDCAサイクルを回しながら、取組の進捗状況を踏まえつつ、必要に応じて施策等の見直しを行います。

4-3 取組ごとの役割分担

●具体的な取組ごとの役割分担

計画の柱	基本方針	具体的な取組案	担当団体			
			県	市町村	事業者	関係団体
もっと高知のあゆに触れられる機会づくり	観光	・火振り漁見学とそこで獲れたあゆを食べさせる体験メニューの旅行商品化				
		・「鶴鯛い」や「やな漁」といった漁法を用いた観光メニュー作り				
		・子供を対象とした四万十川でのあゆ漁体験の家族連れ向けへの展開				
		・「あゆに関する体験とSDGs」や「アサギアサギの観察」を結びつけた教育旅行の企画及び実施				
	・ホテル等宿泊事業者と地域や漁協等が連携した「川遊び」「山遊び」といった自然体験オプションの提供					
	・キャンプ場で気軽にあゆ釣りなどの漁業体験が出来る仕組み作り（ハードルを下げてファンを増加）					
	・川へのアクセスの良さやトイレがあるといった好条件を活かした友釣り体験観光の仕組み作り					
	・駐車場や入川道等の整備、トイレ案内マップの作成					
	・今後キャンペーンの推進に向けて具体的な取組を検討					
	食	・観光客等が訪れる各種イベントにおいてあゆを食べる機会の創出				
		・県内飲食店でのPRイベント等による誘客				
		・個人観光客向けのいきあゆ会の実施				
・県内量販店等での販売方法の提案（アウトドア客への食材提供等）						
・「高知家の魚応援の店」制度の活用						
・「まるごと高知」を活用した高知のあゆの発信及び提供（例：県内複数河川のあゆのセット販売・提供）						
・県内飲食店でのPRイベント等による誘客（再掲）						
・県内量販店等での販売方法の提案（アウトドア客への食材提供等）（再掲）						
・あゆオーナー制度の導入						
・あゆの販促、PRイベントの開催						
釣り	・食育活動でのあゆの使用					
	・あゆの焼き方等の調理研究によるあゆ提供店での品質の向上					
	・塩焼き以外の多彩なメニュー（あゆ寿司、あゆ飯、一日干し、落ちあゆの塩煮等）のPR及び提供					
	・レシピコンテストや協力店舗によるメニュー開発					
	・安全な漁場の整備					
	・友釣り専用区等の夏休みの子ども（親子連れ）への開放					
	・子供向け釣りイベントの開催					
	・幼稚園でのあゆのつかみ取り体験等					
	・あゆ釣り師養成講座の開催					
	・一般向けのあゆ漁（しゃびき等）体験メニューづくり					
もっと高知のあゆで「外貨を稼ぐ」仕組みづくり	加工・流通販売	・あゆ漁インストラクターの育成				
	・祖父から孫への釣り文化や釣り道具の継承					
	・釣り具レンタルや中古釣り具の譲渡などの仕組み作り					
	・あゆのルアー釣りの普及					
	・電子遊漁券の導入拡大や共通遊漁券の実施					
	・川沿いにあるキャンプ場で気軽にあゆ釣りの漁業体験が出来る仕組み作り					
	・県内の商品を扱う地域商社への売り込み					
	・集出荷システム、冷凍加工、鮮度保持体制の構築					
	・高知県の各河川のあゆのブランド化					
	・高知家の魚応援の店での「あゆフェア」開催					
・商談会への「高知のあゆ」ブースの出展						
・一人利きあゆ会の商品化（県内複数河川のセット販売）						
・県や公社主催の商談会への参加						
・県内外の量販店、小売り、飲食店等のバイヤーとの商談を通じた販路の確保・拡大						
・地域商社と連携した外商活動						
・流域市町村におけるふるさと納税返礼品への利用拡大						
・あゆに関するシンポジウムの定期的な開催						
高知県民をもっと川ガキにする仕組みづくり	体験・教育	・稚アユの放流体験				
・シャクリ漁、投網漁体験、つかみ取り体験						
・学校や地域の方と連携した環境学習の実施（物部川・鏡川・仁淀川・四万十川では取組有り）						
・漁協や企業と連携した産卵場造成体験、産卵見学の実施と鮎オーナー制度の導入						
高知のあゆとずっと遊び、ずっと食べるための仕組みづくり	資源保護	・カワウ及び外来魚の駆除や産卵場造成事業への支援、あゆ人工稚苗生産事業の継続・拡大に向けた関係団体による支援				
・流域ごとの天然あゆ資源の保護・回復に向けた長期的なビジョンと短期的に実行するアクションプランの策定						
・資源調査とその分析や放流による漁獲量調整等での資源確保策の提案						

4-4 計画推進関連施策の一覧

(参考) 令和2年度 子どもの貧困対策関連施策の一覧

(単位:千円)

		予算額	
I 子どもたちへの支援策			
1 就学前教育・保育の充実			
1	スクールソーシャルワーカー活用事業(保育所・幼稚園等)	13,637	幼保支援課
2	特別支援保育推進事業(特別支援保育・教育推進事業費補助金)	15,301	〃
3	幼児教育の推進体制充実事業(特別支援研修)	850	〃
小 計 (3事業)		29,788	
2 学校をプラットフォームとした支援策の充実・強化 (ア放課後等における学習の場の充実、イ相談支援体制の充実・強化、ウ地域全体で子どもを見守り育てる取組の推進、エ子どもの健康づくりの推進)			
1	放課後等における学習支援事業	173,335	小中学校課
2	コミュニティスクール推進事業	3,955	〃
3	管理指導諸費(コミュニティスクール学校運営協議会)	1,065	〃
4	高校教育推進費(学習支援員)	13,052	〃
5	拡 新・放課後子ども総合プラン推進事業	707,035	生涯学習課
6	拡 地域学校協働活動推進事業	86,893	〃
7	相談支援体制充実費(スクールソーシャルワーカー活用事業)	381,983	人権教育課
8	相談支援体制充実費(スクールカウンセラー等活用事業)	120,194	〃
9	心の教育センター相談支援事業	62,209	〃
10	自殺対策事業費(かかりつけ医等心の健康対応力向上研修委託料)	1,032	障害保健支援課
11	食育推進支援事業	1,305	保健体育課
12	拡 健康づくり推進事業費(子どもの健康的な生活習慣支援事業、地域食育推進事業)	6,708	健康長寿政策課
13	歯科保健事業費(子どもの健口応援推進事業)	1,141	〃
小 計 (13事業)		1,558,907	
3 多様なニーズに対応した学びの場の提供及び就労支援			
1	専修学校運営費等補助金	8,749	私学・大学支援課

(イメージ図)

4-5 SDGsとの関連

SDGsの17ゴールの達成に向けた 第2期高知家の子どもの貧困対策推進計画の取組										
	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 健康と長寿を促す	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 持続可能なエネルギー	8 働きがい、経済成長、雇用	9 産業とインフラの基盤をつくろう	10 人や国ごとの格差をなくそう
I 子どもたちへの支援策										
1 就学前教育・保育の充実			●	●						●
2 学校をプラットフォームとした支援策の充実・強化			●	●						●
3 多様なニーズに対応した学びの機会提供及び継続支援				●		●				●
4 福祉職から子育て職まで連携の取組 総合的な支援（福祉職スタッフの確保）	●	●	●	●					●	●
5 子育て支援員に対する研修（国・自治体の子ども保育スタッフ）	●	●	●	●		●			●	●
6 経済的負担の軽減	●	●	●	●						●
7 社会的規範の改善	●	●	●	●				●	●	●
8 児童虐待防止対策の推進（子どもたちの安全・安心の確保）	●	●	●	●					●	●
II 保護者等への支援策										
1 親育ち支援の充実			●	●				●	●	●
2 福祉職から子育て職まで連携の取組 総合的な支援（福祉職スタッフの確保）	●		●	●				●	●	●
3 生活・住まいの支援	●	●	●	●		●	●			●
4 就業への支援	●				●	●	●			●

SDGs（持続可能な開発目標）

【持続可能な開発目標（SDGs）とは】

2001年に採択されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて採択された2030年までに持続可能なよりよい世界を目指す国際目標です。

170ゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（Leave no one behind）」を掲げています。SDGsは開発途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。（出典：外務省HP）



(イメージ図)